

▽痛ましい集団自決

3日目は9時すぎにタクシーで泊港へ。フェリーで阿嘉島に寄港ののち、12時すぎに座間味島に到着。「サングのふるさと」「船上からクジラを見るホエールウォッチング」などが人気を呼んで、民宿が30軒もある。若者たちはシュノーケリングやダイビングなどマリンスポーツを楽しむようだ。若いグループは見当たらず、釣り客の姿が目立つ。

座間味島は沖縄本島から約40キロに点在する慶良間諸島の最北にある。今年3月、国立公園に指定された景観とともに、痛ましい戦争の傷跡を抱える。

本島寄りにある渡嘉敷島と座間味島の島民が自決したことで知られる。1945年3月、米軍の空襲と艦砲射撃を避けるため、島の



座間味島の集団自決の碑

守備軍人と各所の壕に逃げた島民177人が、自決を余儀なくさせられた。

別の壕では15家族59人(うち小学生26人ら子ども)が全員死亡の悲惨も。参道脇の草むらに文字がほとんど読めない石碑が立っている。

集団自決は島の守備隊長が命令したという教科書や著書の記述をめぐって論争が続いている。島の山頂近くに「平和之塔」が建立され、記念塔の左右には(兵士を含む)名前を刻んだ御影石がある。「戦争さえなかったら、この美しい島でどんなに楽しい生涯を過ごせたであろうか」。心から哀悼の祈りをささげた。

▽酒量の計測不能

午後の便で帰京する4日目は、対馬丸記念館をまず訪ねた。終戦前年の44年8

泡盛ジョッキは怖い怖い

酒場徘徊随日記

老Gこと八幡さん、そして老Gとあまり年齢の変わらないオギカンさん。2人の酒場徘徊模様を、随行の高齢者介護係の目で記した。

▽エンドレスは無しに

初日は、お決まりの山羊料理「美咲」。どういうわけか山羊(ヒージャー)ではなくマグロが出てきて「あれっ?」とは思ったものの、まあいいか。オギカンさんから「美咲」

月、県外疎開する学童775人と一般疎開者ら計1485人が米軍の魚雷攻撃で対馬丸とともに海底に消えた。写真や遺品を見て歩くと、沖縄と戦争の痛ましさを感じた。対馬丸と戦った慰霊碑「小桜の塔」と隣接する「新聞人戦没者の碑」を参拝した。

毎回、よく歩く仲間だが、今回は4日間で歩数計は3万9753歩(28.8キロ)をカウント。飲んだ酒量は計測不能、飲食店への貢献度も極めて大きい。お疲れさまでした。

(八幡裕隆)

へ行くとき聞いた時、4年前のことが思い出され胸騒ぎを覚えた。共同那覇支局開設50周年記念祝賀会前夜のことだ。「美咲」で夕方6時ごろから始まった宴会は、10時、11時になってもお開きになる気配がない。それどころか、時間を追うごとに1人、2人と増えてくる。これが沖縄スタイルなのかと感心しつつも、午前0時を回った時、一足先に宿泊先のホテルに帰った。内心「助かった」という思いで。

そんな経験があったから、今回はなんとしてもエンドレスは避けたかった。「あれじゃあ体がもたない」という思いは、オギカンさん、八幡さんも同じだったらしい。「美咲」へ行く前から「9時にはお開きにして」と申し合わせていた。だから、9時半ごろにお開きになったときは、安堵の気持ちでホッとした。

が、そう簡単に予定どおりに運ばないのが世の常か。「桜坂に行こう」とのオギカンさんの一言で4年前の悪夢に再び襲われることになる。「僕も一緒にいいですか?」と那覇支局長



あぶりソーキそばにがぶりつく



鮮やか、ブーゲンビリアにうっとり

の中川さん。「えっ、中川さんって、そういう人だったの?」と口にごそ出さなかったが、「今日はお疲れでしょうから」とかなんとか、ストップをかけてほしかったなあ。

▽「群星」でカチャーシー

たどり着いた先は、竜宮通りの「群星」(むるぶし)という民謡ライブスナック。1年前にオギカンさんが奥村さんと通った店とが。

金曜日だけ「群星」でライブをしているという27歳の上原青年。三線片手に張りのある声で琉球民謡を披露する。

「あー、いいなあ、三線の音色は」と感心していると、オギカンさんがママを誘って踊りだした。いつ

ものことながら、ますます興が乗ってエンドレスになりそう。

ママの宮里良子さんは、沖縄俳優協会常任理事で劇団「群星」の座長とか。そういうわれれば、劇団員らしいバツチリメイク。喉のほうもなかなかのもので、沖縄の民謡歌手に独特の哀愁を帯びた高音がうらやましい。聞くと、子どものころから特別な発声法を習っているらしい。「石垣のほうは、もっと声が高いのよ」とママさん。できることならご教示願いたいものだ。

オギカンさんは踊りまくる。我々も促されて全員でカチャーシー。歌って踊って、もちろん飲んで、お疲れ様の初日だった。

(3面に続く)